

令和 4 年 第 1 3 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和4年12月19日(月)

開会午後1時00分、閉会午後2時01分

II 場所

県民会館611号室

III 出席委員

1番	黒田 卓	2番	町野 利道	3番	村上 美也子
4番	坪池 宏	5番	大西 ゆかり	教育長	荻布 佳子

IV 説明出席者

教育次長	中崎 健志	教育企画課長	坂林 根則
生涯学習・文化財室長	吉田 学	教職員課長	板倉 由美子
県立学校課長	番留 幸雄	小中学校課長	水戸 英之
保健体育課主幹	大島 一恵		

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時00分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

(令和4年11月8日開催の令和4年第12回富山県教育委員会会議録)

会議録閲覧

荻布教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 議決事項

議案第29号 富山県立学校文書管理規程一部改正の件

教育企画課長から説明し原案のとおり可決した。

議案第30号 富山県文化財登録制度の創設の件

生涯学習・文化財室長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第31号 博物館の変更登録に関する告示の件

生涯学習・文化財室長から説明し、原案のとおり可決した。

3 報告事項

(1) 臨時代理について(令和4年11月富山県議会定例会に付議する案件に対する意見に関する件)

(2) 臨時代理について(令和4年11月富山県議会定例会に付議する案件に対する意見に関する件)

教育企画課長から説明した。

(3) 第5回令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会の開催結果について

(4) 令和5年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況について

県立学校課長から説明した。

4 今後の教育委員会等の日程について

教育企画課長から説明した。

5 議事

○議案第 30 号関係

〔黒田委員〕

- ・創設については全く異論はない。保存・活用への支援を、今後どうするのか結構重要になってくると思うのだが、実際に県内のいろんな伝統行事や民俗芸能などの現状を見ても、費用を負担するだけでは残していくのはなかなか難しいのではないかと。一番は担い手ということになるが、誰でもいいということではないので、今後ある程度担い手が減っていく可能性があるということも想定して、こういうものがあつたということを残していくような手立てをしておかなければならないと思う。デジタル化の技術を使って情報発信し、魅力を伝えていく、これはこれでものすごく重要だと思うのだが、今、踊り自体をスキャンしてデータとして残していくとか、いろんなものが出てきているので、そういうことも今後検討していく必要があるのではないかと。思う。

〔生涯学習・文化財室長〕

- ・ありがとうございます。当然、どのように伝えていくかをしっかり検討させていただければと思う。

○報告事項(2) 関係

〔町野委員〕

- ・補正予算の中にバスの安全装置の設置項目が2つあり、特別支援学校のバスに1千40万円、学校安全対策費の小中学校の送迎バスに1千万となっているが、これはバス何台分なのか。

〔教育企画課長〕

- ・国の補助要綱で1台当たりの上限が20万円となっており、特別支援学校のバスについては、県が保有しているバスが15台、民間に委託しているバスが37台で計52台の1千40万円を計上している。市町村への補助については2分の1補助の10万円の補助額となっており、100台分の1千万円を計上している。

○報告事項(3) 関係

〔黒田委員〕

- ・総合教育会議でもなかなかどの方向に行くのか分からないところがあるが、規模についてもどれくらいの規模を皆さんが想定しているのかということもあると思う。ものごとを作っていくと、そこで多様な生徒同士、多様な先生とコミュニケーションしながら学びを深めていくことについては、皆さんの考える方向は同じなのではないかと、この資料で感じた。来年度の定員を削減するという話の時に一部の自治体の首長からも話があつたが、やはりこういう議論の段階から市町村とも話をしていくというか、加わってもらふようなことも必要なのではないかと感じている。ただ、どういう形で加わってもらふのが難しいと思うのだが、たとえばある程度の規模の学校を作るとして、今ある建物を残すこともあるかもしれないし、場合によっては別の場所に新しいものを作るという話もできるかもしれない。これは財政事情にもよると思うのだが。そういうことを想定した場合に、どこに作るかが非常に大きな問題になってくると思う。それを、県の所有する場所に限らず、市町が有している土地というのものもあるかもしれないし、そこに作ることによって生徒にとってもこういう利便性があるとか、この中の議論に出ているように、うちの地域にはこういう産業が盛んなので、そういうところと連携した新しい学習ができるとか。そういう提案をしてもらふような形で市町との関わりを作っていくかと思う。そうした方が、今は高校がすごく減らされる、県は減らすぞ、うちの町を潰すなというような、そういう話になってしまうのだが、そうではなく、一緒にこの地域を考える時に市町も単独ではなくて、できればいくつかの近隣区域と連携しながら、たとえばここに作れば生徒にとっても地域にとっても県にとってもその市町にとってもメリットがあるという形で提案いただく方法もあるのではないかと。県ではいろんな新しい取り組みをプロポーザル方式でやっている事例もあるので、そういうものを提案いただく機会があつてもいいのかなと思った。これはあり方検討会でやるのか、教育委員会でやるのか、総合教育会議でやるのかは分からないのだが、その辺も可能であればご検討いただければと思う。

〔教育長〕

- ・ありがとうございました。たしかに今年度も市町からたくさん意見を頂戴し、今後、特に来年度から今後の

高校のあり方について検討していくにあたり、市町村のご意見をどのようにお聞きするかは大事な視点だと思があるので、そのあたりのやり方も含めて考えていかなくてはいけないと思っている。それが総合教育会議になるのか、どこになるのかというところも含めて、県の知事部局とも相談の上になるかと思うが、ご意見を踏まえて考えたいと思っている。

〔大西委員〕

- ・11月11日の県立高校のあり方検討委員会の資料を前もっていただいたが、このアンケートのクロスチェックで、高校2年生の生徒と保護者、卒業生に、当初希望していたコースに行けた生徒の満足度、どちらとも言えないと答えた生徒の満足度、希望していない学科・コースに行った生徒の満足度が集計してある。当然のことながら、あまり希望していないところ、どちらともいえないとか希望していなかった学科やコースに進んだ生徒の満足度は、高くならなかったのは当然の結果だと思うが、入学した高校でエンジョイできなかったのは何故なのかという感想を持った。そもそも進路を決める時にもうちょっと話し合いをすべきというか、生徒が希望していなかった高校に行ったのは結局偏差値などで勧められて、希望と違う学科・コースに行ったのではないかと感じたので、進路を相談される先生もとことん生徒と向き合って、保護者も子どもと向き合って、納得したところを受検したらもっと満足度が高くなるのではと思った。それについては大学受験についても同じことが言えると思う。高校生が大学を受験する時にもどうしても点数で選ぶ。どこか入れる学校、点数で入れる大学の提案が先へ先へと来てしまうので、そのあたりもご考慮いただけたらと思った。

〔教育長〕

- ・確かにおっしゃる通り、生徒本人の納得性というか、主体性、自分が考えて選んだのだということが入学後の学習の成果や満足度に強く結びついてくるのだろうと思う。

〔町野委員〕

- ・たくさんグラフが並んでいるデータがあるが、そのデータの読み方に気をつけて読まないで正確なものを表しているとは限らない。おそらく信頼度10%位だろう。科学実験のデータや物理実験のデータのように信頼度90%位の実験データだったら、それでこうだと言えるが、こういうアンケートの信頼度は非常に低い。だからあまりこれを基に右だ左だと考えない方がいいと思う。それよりも以前総合教育会議でも言ったように、ここにいらっしゃる課長さん方の日頃の問題意識とか、努力とか、その中で培った意見の方が正確だと思う。

○報告事項(4) 関係

〔坪池委員〕

- ・就職の内定の件だが、例年富山県の場合は経済界とかいろんなところに協力いただいて高い内定率を維持している。早い段階からいろいろなことをやっていただいて成果があがっていると思うのだが、今の時期になってもごくわずかだが、なかなか就職が決まらない生徒も何人かいるわけだが、何か傾向があるのかなのか。あるいは過去の就職が決まらなかった生徒と最近の生徒とで気質の違いがあるのかなのか、把握していれば教えてもらいたい。

〔県立学校課長〕

- ・傾向といったことは詳しくないのだが、大変わりはしていないと思っている。指導していく上で重要な観点かと思うので、その辺もまた調査してみたいと思う。

〔坪池委員〕

- ・発達障害の人たちの割合が多くなっているとか、そういう子どもが高校に入って来るとか、あるいは不登校の生徒が増えているとか、そういう事がいろいろあると思うが、実際にその辺の問題が出るものだからご苦労があるのだと思う。プライシーにかかわることなのでなかなか難しいと思うが、また何かあればお願いしたい。

〔教育長〕

- ・その辺もしっかり分析して対応に努めたいと思う。

〔村上委員〕

- ・コロナで大変な中、このように高い就職内定者、例年通りの率を実現して素晴らしいことだと思う。コロナで

学校生活も大変になっているので、就職すると、ストレスとか問題を抱えてしまうこともあるかと思うが、昨年度コロナ前と比べて離職されてしまった部分が大幅に上がったとか、そういう面でのフォローアップ体制のようなものは学校でとられているのか。

〔県立学校課長〕

- ・離職率が急に増えたとか、そういうところはまだ聞こえてきてはいないが、3年後に結果が公表されてくる状況がある。ただ、各学校では必ず企業訪問しており、入った生徒がどういう状況かを情報交換させてもらい、例年より多い少ないという声を聞いてみたいと思っている。おっしゃられたようなフォローという部分については、そうした訪問時やあるいは学校においてフォローしている。すべては本人の意思によるところにあるので、すべてがすべてではないが、訪問の機会を通して支援を行っていきたいと思っている。

○その他

〔大西委員〕

- ・先生方の人事異動についてだが、小中学校の異動が2月、高校は3月に決まると聞いている。教員採用試験では中高枠で採用試験が受けられるが、小中と高校の人事決定時期が違うということで、一度中学の先生、高校の先生に配属されてしまうと、その後なかなか中学の先生から高校の先生、高校の先生から中学の先生に変わらないということが現状では多いと聞いている。中学から高校への異動の希望はどの程度出すことができているのか、あるいは逆に反映されていないのか。このようなことについて配慮することも教員の離職防止につながるかと思うので、お聞きしたい。

〔教職員課長〕

- ・異動の内示時期は、小中学校も県立学校も基本的には3月下旬である。若干、県立の方が早いということがあるが、基本的には3月という形になる。義務教育の場合、市町村教育委員会で異動希望を取りまとめる関係があり、もっと早い時期からそれぞれの教育委員会等で作業がはじまるので、異動内示というより希望をする時期はそれぞれあるだろうと思っている。中学校から高校へ、高校から中学校というような異動については、先生方の希望はお聞きするが、地域とか教科の状況があり、必ずしもご希望にそえるものではないというのは事実である。

〔大西委員〕

- ・やはりしょうがないことなのか。

〔教育長〕

- ・人事のことなので、いろんなサイクルとか、前任の先生が変わるタイミングと今の異動の希望がうまくマッチするか、というようなところがあるのだろうと思う。

午後2時01分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。